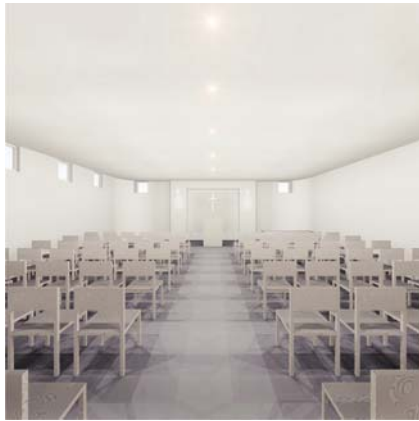


特集 “倉庫から聖なる空間へ”



建築資材メーカーの事務所兼倉庫の建物を、プロテスタントのキリスト教会へ再生するリモデリング工事のための建築設計・インテリアデザインです。

現場は県内某所、地方都市の比較的交通量が多い通り沿いに位置します。既存建物は、建築資材を扱う全国的なメーカーの事務所ということもあり、デザインも悪くなく、シンプルで端正な佇まいでした。リモデリングのためには、建物自体に過剰な主張がなく、クセのないスクエアな形状は好ましいものでした。

構造は、鉄骨造の柱と梁によるラーメン構造。既存の内部空間は、事務所+資材倉庫として使用されていたので、内部に柱が少ない大きな2つの空間で構成されています。

まずは、この建物全体をどのようにゾーン分けすべきか考え、手前の事務所スペースを執務・談話スペースに、奥の倉庫スペースを礼拝堂として考えることにしました。

談話スペースは、キッチンを備えたカフェスペースとして考えており、外部を見通すことができるガラス張りのコーナーに設けることにしました。教会は、基本的にどのような人であっても歓迎しますので、通りがかりの人も気軽に立ち寄りいただける建築にしたいと考えました。



礼拝堂は、80人程度の席を予定しています。リモデリング前は資材倉庫ですので、内部は仕上材もなく、屋根や外壁の裏側がむき出しになっている状態です。言うまでもなく、礼拝堂は教会にとって最も大切な場所ですので、この「むき出しの倉庫」をいかに「聖なる空間」に変えていくか、が最も大きな課題になりました。素材・光・窓という要素を組み合わせ、滑らかで綺麗な過ぎない素材が、どう見えるのかを考えながら、模型を製作し、検討を重ねました。



外観は、既存建物自体シンプルでスクエアな形状で私たちの志向にも合うものでした。予算的な制限もあり、できるだけ既存建物の良さは活かしながら外部デザインをしたと考えました。教会としてはやや過剰なシャープさを抑えるように、礼拝堂でも使用するタイルや、スクリーンとしての木製ルーバー、視線を調整するガラスフィルムを使用し、十字架という教会の象徴と合わせ、控え目な存在感を表現したいと思います。

スタッフの日常・非日常 vol.04



こんにちは。スタッフの渡部です。
9月吉日、雨。引き続き建築現場に行きました。基礎工事も無事終わり、次は建て方です。あつという間に形が出来上がっていき、いよいよ空間のスケールが実感できます。建て方の際、図面上で縦の列を「い・ろ・は・..」と、横の列を「1・2・3・..」と呼び、柱に交差した番号を付けています。このとき、一番最初に立てる柱が「い」の「1」だそうです。「いの一」という言葉は、そこから由来しているんだそうです。さて、軸組も基礎同様、最重要検査項目です。というわけで、筋かいや金物などの検査を入念に行います。そしてまたもや検査中の時間だけ雨に降られました。完全に雨を呼んでいます。

今月のマテリアル

氷河粘土塗材 スイスローム
200万年前の氷河により生成されたスイス氷河粘土が主成分で高い調湿性と断熱性があります。塗壁でなくてはならない、教会の主要な部分に使用されています。

ワイルド無垢ナラ フローリング
自然の節を活かし、古木の風合いが際立つナラ材の無垢フローリングです。水回りを除く教会全体の床材として使用され、素材感を活かし、空間の素朴さや力強さを表現します。

編集後記

みなさん、こんにちは。季節は夏から秋へ向かおうとしています。今年の夏は猛暑と言われていますが、秋田はそうでもなかったような・・・もう秋か、という感じもします。お盆休みにオリンピックを見ながら前号のニュースレターを作成したのですが、あれから早くも1ヵ月近く経つんですね。この1ヵ月は本当に驚きの速さでした。

「NEWS」や「お知らせ」にも書きました通り、担当者として参加する行事が続きます。9月20日の学生賞の審査から、県内3カ所の超長期住宅のセミナー講師、10月中旬の仙台でのJIA全国大会など。そして何と言っても、同じく10月中旬に予定している事務所の引越し！

あまりいろいろな事を考えると頭がパンクしそうです。ですから、あまり考えないようにしています。(笑) 当然これらを、通常の業務をしながら遂行しなければなりませんので、早目早目に段取りよく進めていかなければなりません。来月のニュースレター、かなり厳しそうですが・・・次回もどうぞお楽しみに。



9月の加藤一成

NEWS



第12回 JIA東北建築学生賞の審査員を担当させていただきます。丸一日、タフな審査会になりそうです。建築家を目指す後進のため、少しでもお役に立てればと思い承諾しました。他県から来る建築家もツワモノばかり。審査することは、審査されること。秋田県代表として、真剣に審査します。

お知らせ

「建築士等を対象とした超長期住宅関連講習会」の講師を担当します。

国土交通省では、超長期住宅実現のための技術基盤強化を行う者に対し、超長期住宅の実現を図ることを目的とする「超長期住宅実現のための技術基盤強化を行う者に対する補助事業」を実施することとなりました。特に、超長期住宅実現と普及のためには、住宅の設計・工事監理に携わる建築士等が、超長期住宅に関連する知識等を身につけておくことが必要不可欠です。そこで、日本建築士会連合会及び建築士会では、建築士等を対象とした超長期住宅に関連する講習会(無料講習)を全国規模で開催し、社会・国民ニーズへ応えられるよう、より多くの建築士等に情報提供を行うこととなりました。

福田首相が住宅土地調査会長だった時に提言され、政策としても掲げられていた200年住宅。これから全国の建築士に向けて展開しようとした矢先の首相辞任。やや先行き不透明ですが、住宅の寿命が延びることは良い事に違いありません。県内建築士の意識の向上のため、頑張ります！

Web Site

- Home トップページ
- Profile プロフィール
- Concept コンセプト
- Service 業務案内
- Works 設計事例
- Conference 無料相談

ニュースレター
「建築家の日常・非日常」
発行責任者：加藤 一成

有限会社 加藤一成計画事務所

TEL. 018-831-4315
FAX. 018-831-4316
HP. http://www.lessdesign.jp
BLOG. http://issei-design.cocolog-nifty.com/
MAIL. issei-design@nifty.com